

教育長賞

恵みの雨

浜松市立笠井中学校

二年 ^{ふたむら}二村 さん

日本には、春雨、時雨、梅雨、零雨など雨の付く言葉がたくさんあります。中でも「恵みの雨」という言葉をよく聞くのではないのでしょうか。

私は、恵みの雨という言葉聞いて、少し不思議に思いました。なぜなら、この言葉からは、雨は恵みであり大切にすべきだということが伝わってくるからです。雨と聞いて大喜びする人はあまり多くはないのではないのでしょうか。私も、雨の日は嫌いです。雨が降ると、外がどんよりして気分が落ちます。雨が降ると、傘をささなくてはいけなくなります。雨が降ると、出かけるのが嫌になります。しかし、恵みの雨という言葉からは、雨を非常に大切にしていることが伝わってきます。

なぜ、ほとんどの人が嫌いであるだろう雨を、「恵み」と表現しているのでしょうか。少し考えてみたとき、ふと思いついたことがありました。

私のおばあちゃんは、家から少し離れたところで畑をやっています。ある時、私も気分転換におばあちゃんの畑についていったことがありました。その時、畑の隅に大きなドラム缶のようなものがあり、なんだろうと思って中を覗いたら、ドラム缶の中には大量の水が溜まっていました。何に使うんだろうなあと思って様子を見ていたら、おばあちゃんが畑仲間に「この水使ってもいいで

すか？」と聞いていました。なぜそんなことを聞くのだろうと思って何に使っているの？と質問してみたら、雨水をためておいて、畑に水をやるときに使うんだよ。と教えてくれました。それを聞いて私は、感心しました。今まで嫌でしかなかった雨も、人のために利用することができるということが分かったからです。よく思い返してみれば、普段生活している中でも「雨が降って畑が潤った」「雨が降ってくれてよかった」などということを知ることがあります。私にとっては嫌で仕方のない雨でも、畑をやっている人たちにとっては「恵みの雨」であるということが分かり、雨の見方が少し変わりました。

今、能登半島では、十分な水を得ることができないと聞きます。飲み水や、洗顔用の水などは清潔な水でなくてはいけないかもしれません。しかし、トイレの水や、地震で汚れてしまった家具などを洗浄する水はどうでしょうか。トイレの水や、洗浄用の水は、雨水で代用することはできないでしょうか。

清潔な水は、水道からしか出ないです。水を沸騰させるにも、電気やガスが必要です。しかし「雨」は自然のものです。雨ならば、電気もガスも必要ありません。雨を利用できれば心強いのではないのでしょうか。雨水を維

持することは大変かもしれませんが。放っておいたら腐ってしまったたり、ボウフラが湧いたりしてしまうでしょう。それでも、何かいい案はないでしょうか。

東京にある両国国技館では、トイレの水に雨水を利用しています。昭和五六年頃、墨田区の錦糸町や両国地区などでは、都市型洪水に度々悩まされていたそうです。当時、台東区にあった蔵前国技館が墨田区に移ることに、区は日本相撲協会に洪水防止と水資源の有効活用のために国技館への雨水利用の導入を申し入れ、今では国技館のトイレの流し水や冷却塔の補給水等に、ためた雨水を活用しています。

このように、ほとんどの人が嫌っている雨でも、使い方によっては人々の生活を豊かにすることもあるのです。私も、雨は嫌だからといって遠ざけるのではなく、「雨」という貴重な水を大切にしていきたいと思いました。と同時に、普段から、手を洗っているときは水を止める、洗顔や歯みがきをするときに水を出しっ放しにしないなど、もっと節水を心掛けようと思いました。